

## ギニア月報（2025年2月）

### 主な出来事

#### 【内政】

- 5日、ギニア政府は首相・閣僚による地方都市巡業（Immersion）を開始。
- 19日、市民活動家のアブドゥル・サッコ氏が自宅から誘拐され、20日、フォレカリアの軍事基地付近にて、拷問を受けた危篤状態で発見される。

#### 【外政】

- 14日、アマラ・カマラ大統領府事務総長は、ミュンヘン安全保障会議に出席。

#### 【経済（開発協力含む）】

- 19日、韓国政府とアフリカ開発銀行の支援により産業化支援プロジェクトが開始。
- 28日、ギニア初となる自動車ブランド New Guinea Development (NGD) の設立が発表される。

### 1 内政

- ・ 1日、バ・ウリ首相は、暫定大統領の指示の、2月5日より約1ヶ月の間、各地方都市への巡業活動（immersion）を行うことを発表。
- ・ 1日、野党UFDGは、4月19日、20日に党総会を開催することを発表。
- ・ 2日、ギニア政府は、生体認証付き身分証明書を全国民に無料で支給すると発表。
- ・ 3日、港湾労働者によるストライキが発生し、複数人が負傷。ギニア港湾荷役会社協会（AGEMAP）の事務局長が3期目を続投することに反対するもの。
- ・ 5日、森林ギニア地方において、地方巡業（Immersion）が開始。
- ・ 8日、セク・トゥーレ初代大統領の息子モハメド・トゥーレ氏が、米国での7年の禁錮を終え、ギニアに帰国。
- ・ 13日、政党BL党首ファヤ・ミリモノ氏は、反暫定政権的な発言を行った後、

脅迫を受けていると発表。

- ・ 13日、ギニア最高裁は、UFDG 党首セルー・ダレン・ディアロ氏及び UFR 党首シディア・トゥーレ氏の土地の所有を認めた法令は無効であると判決。
- ・ 15日、ウスマン・ガウアル政府報道官（兼運輸大臣）は、ドゥンブヤ暫定大統領の大統領選の出馬について、実現すれば政府はこれを全面的に支持する旨発言。
- ・ 19日未明、Forum des Forces sociales de Guinée 代表の市民活動家のアブドゥル・サッコ氏が、コナクリ市内の自宅から何者かに誘拐される。
- ・ 19日、サッコ氏の誘拐について、セルー・ダレン・ディアロ氏が率いる ANAD が非難声明を発出。
- ・ 20日、政党 PEDN がサッコ氏の誘拐について懸念を表明。
- ・ 20日、誘拐されたサッコ氏が、フォレカリアの第 66 軍事基地付近の茂みにて住民により発見される。同氏は、拷問を受け、危篤状態にあり、治療のためコナクリに搬送された。
- ・ 23日、ウスマン・ガウアル政府報道官は、選挙実施は雨季を避けるために、全ての選挙を本年中に行うことは困難と言及。
- ・ 23日、政府報道官は、サッコ氏の誘拐を受けギニア政府は犯人の捜索のための司法措置をとっていると発言。
- ・ 27日、UFDG 内の親ウスマン・ガウアル勢力 CERAG は、臨時党総会を 4 月 12 日、13 日に開催する旨宣言。

## 2 外交

- ・ 4日、UNESCO の調査団がバコレ（Gbakore）を訪問し、世界遺産のニンバ厳正自然保護区について、危機遺産リストからの削除を検討した。
- ・ 14日、アマラ・カマラ大統領府事務総長はミュンヘン安全保障会議に出席

し、ガーナのマハマ大統領と会談。

- ・
- ・ 19日、米大使館は、同日未明の市民活動家サッコ氏の誘拐を懸念する、コミニケを発出。

### 3 経済（経済協力含む）

- ・ 5日、ムラナ・スマ経済・金融大臣は、シマンドゥ鉄鉱山の採掘開始は、2026年1月となると発表。
- ・ 8日、社会開発貧困基金(Fonds de Développement Social et de l'Indigence)はカルーム石油貯蔵庫爆発被災者に対し、支援キットの配布を開始。3689世帯が対象とする。
- ・ 18日、ギニア鉱業省は、マンディアナ県にて採掘活動を行っていた Hong Xing Mining Guinée 社に対し、鉱業規則の違反のため活動停止を命じた。
- ・ 19日、高地ギニアを訪問したカマラエネルギー大臣は、6ヶ月以内にカンカンにて、40MWの発電所を運用開始することを発表。
- ・ 19日、韓国政府及びアフリカ開発銀行の協力の下、ギニアの産業化を支援する Knowledge Sharing Programme (KSP) プロジェクトの開始式が行われる。
- ・ 28日、人民宮殿にて、ギニア初となる自動車ブランド New Guinea Development (NGD) の設立が発表される。

(了)